

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果

文部科学省は、小学6年生と中学3年生を対象に全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)を4月に実施しました。今年度は、国語、算数(数学)に加え、理科も実施され、市内小学6年生176名、中学3年生188名が参加しました。今回、本市の結果について公表します。

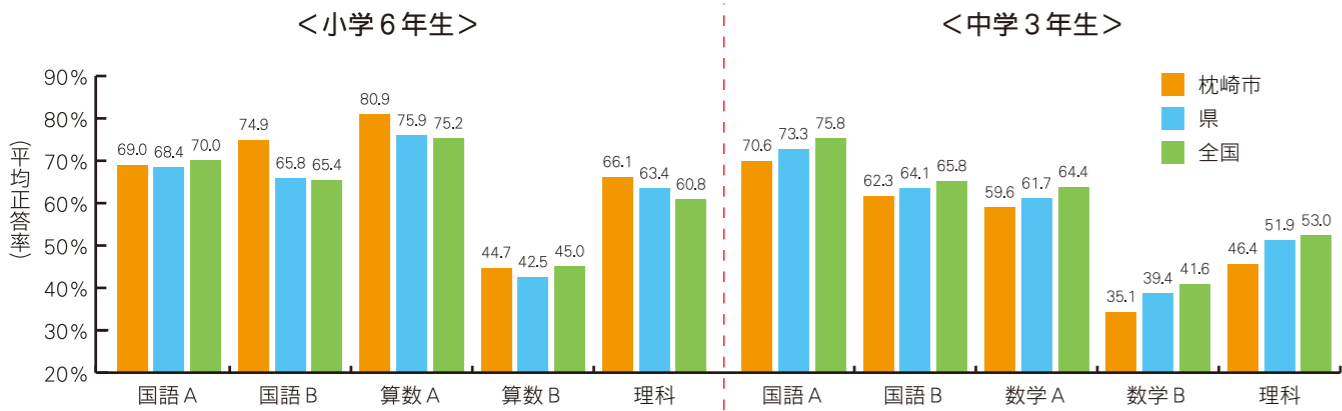
学習状況調査

児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の側面に関することを、質問紙を用いて調査しました。

学力調査

国語、算数では、次の2種類の問題が出題されました。理科については、A・Bの別なく出題されました。
 ・A問題Ⅱ 確実に身に付けておかなければならない学習内容を問う問題
 ・B問題Ⅱ 知識・技能などを実生活のさまざまな場面に活用する力を問う問題

●学力調査の結果と考察



考察

●小学6年生 【国語】

A問題については、全国平均を若干下回りましたが、B問題では大きく上回りました。漢字を正しく読んだり書いたりすることや文の構成を考えて解くことに課題がみられます。

【算数】

A問題については、全国平均を大きく上回りましたが、B問題では若干下回りました。図形の性質を活用したり、処理したりするところに課題がみられます。

【理科】

全国平均、県平均ともに大きく上回っており、定着が図られています。実験・観察から得られた結果を基に考察して、分析するところに課題がみられます。

●中学3年生 【国語】

A問題、B問題ともに全国平均を下回りました。伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように、書くことや単語の種別の理解に課題がみられます。

【数学】

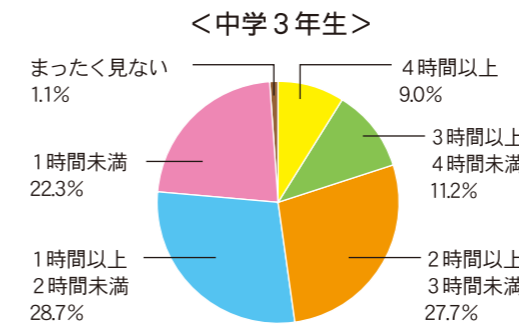
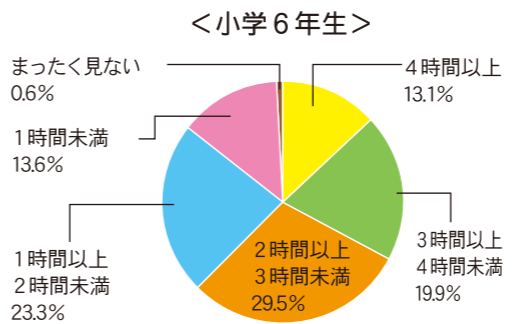
A問題、B問題ともに全国平均を下回りました。数や図形の性質について、構想を立てて説明したり、発展的に考えたりすることや数量の関係から立式したり、処理することに課題がみられます。

【理科】

全国平均を下回りました。予想や仮説を設定し、検証する実験を計画することや実験の結果から平均値を求めて、比較して考えるところに課題がみられます。

●学習状況調査の結果と考察

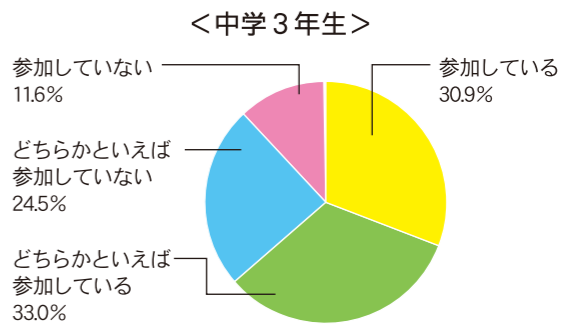
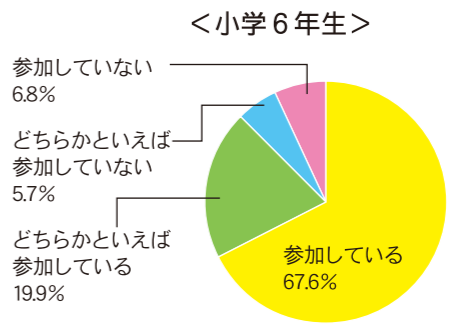
■普段(月～金曜日)、1日あたりどれぐらいの時間、テレビやビデオ等を見たり聞いたりしますか。



考察

約1割の児童生徒が、平日に4時間以上も視聴しています。また、小学生の3割以上と中学生の2割以上が3時間以上視聴しています。

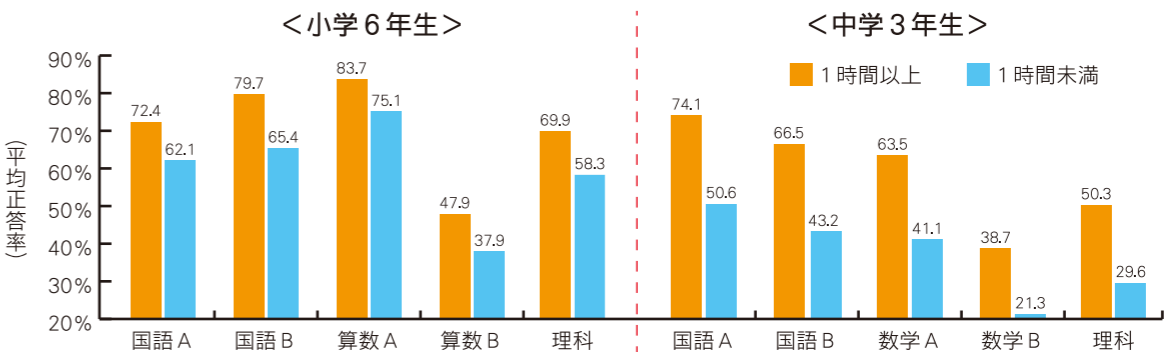
■今住んでいる地域行事に参加していますか。



考察

小・中学校ともに全国・県と比べて非常に高い割合です。また、参加しない児童生徒の割合は低く、本市の子どもたちは地域と強い結びつきがあるということが分かります。

■家庭学習時間と学力状況調査の相関関係



考察

家庭学習を1時間以上している児童生徒が、1時間未満の児童生徒より正答率が高いことが分かります。当然のことですが、これだけ顕著に学力の差が現れてくると、家庭学習の重要性が伝わります。

今後の取組

本調査結果の分析を基に学校及び教育委員会では、次の点に取り組んでいきます。
 また、家庭にも協力を呼びかけ、学校と家庭の両輪で子どもたちの学力向上を図っていきます。

■学校では

- それぞれの学校で本調査結果をさらに詳しく分析・活用し、各学校の児童生徒の課題に応じたきめ細やかな指導の充実に努めます。
- 授業の冒頭に目標(めあて)を示し、授業の最後に学習したことを振り返らせる活動(まとめ)を計画的に取り入れれます。
- ペア学習やグループ学習を取り入れ、児童生徒のさまざまな考えを引き出したり、思考を深めたりする工夫をします。
- 活用力を高める問題を定期テスト等に取り入れ、活用力を意識した授業づくりに取り組みます。

■家庭では

- 家庭学習が集中して取り組める環境づくりに努めるように、各家庭にお願いしていきます。
- 本市では、小学1・2年生40分、3・4年生60分、5・6年生90分、中学生120分を家庭学習時間の目標にしています。
- 「早寝、早起き、しっかりと朝ご飯」など、基本的な生活習慣を身に付けさせ、家庭教育の確立に努めるよう呼びかけしていきます。
- 親子の会話時間をできるだけ持ち、子どもの成長を親子で楽しむ機会を多く設定するよう呼びかけていきます。

※県教育委員会ホームページに本県の結果分析が掲載されています。
<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku-bunka/school/teichaku/kiso/>

■問合せ 学校教育課 TEL 72-0170(内線814)